



平松隆円／著

邪推するよそおい 化粧心理学者の極私的考察

B 6 269頁 定価1,600円

発行所：織研新聞社

〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町31-4 箱崎314ビル

TEL 03-3661-3681

ISBN978-4-88124-300-8 2014年発行

[評者] 大阪産業大学 ^{はなしまあつこ}花嶋温子

面白い! おもわず人に話したくなるネタが満載です。「腹がでていて何が悪い」とか「なぜ電車で化粧は許されないのか」などなど、今、常識だともわれていることが、昔はそうじゃなかったんだと例証してくれます。本書によると、昭和12(1937)年の読売新聞には、東京の市電にお化粧直し用の鏡が設置され、その下に広告を入れたという記事があるそうです。つまり、電車の中でお化粧直しをする女性は一定数いて、それを鉄道会社も容認していたという証拠です。最近では、目の敵にされる電車内での化粧も、昔は受け

入れられていたのです。よそおいの流行は、どんどん移り変わります。なぜ今そうなっているのか、昔はどうだったのか、なぜ好まれるのか、なぜ忌み嫌われるのか、その始まりや経緯を説明してくれる本です。そして、楽しく読んでいるうちに、常識を疑ってみることや、丁寧に調べてみることの必要性に気づく良書です。

付け加えて、挿入されている写真や図案がとても的確でセンスが良いです。さすが、ファッションを語るだけあるなと感心しました。



茂木健一郎・恩蔵絢子／著

化粧する脳

集英社新書 189頁 定価680円

発行所：集英社

〒101-8050 東京都千代田区一ツ橋2-5-10

TEL 03-3230-6391

ISBN978-4-08-720486-5 2009年発行

[評者] 編集事務所 ^{みなくろ たらつ}なずな 水口 保

本書の元になった研究は、茂木氏の研究室に所属していた恩蔵絢子さんが中心となってカネボウ化粧品の研究者たちと共同で行い、「化粧」と脳の働きについて実験を通して検証したものだ。

実験の結果、自分の顔を鏡で見ると、「素顔」と「化粧した顔」では認知活動が異なり、化粧した自分の顔を見るときの脳の活動は、素顔の自分より他者の顔を認識しているときの活動に近いということがわかった。このことから、「化粧というものを、単なる表層の装飾というよりは、より根源的な自己像の構築、とくに他者との関係性の中での自己(社会的自己)の構築にかかわるもの」として注目する。化粧する行為を通じて人は自己を客観化し、社会的知性を獲得する。すなわち「脳

も化粧する」らしいのだ。

そして、めまぐるしく変転する現代世界で日本が生き残っていくためには、<化粧でつちかわれた鏡に映る自分を「メタ認知」を通してみがく能力を、広く言葉や文化の領域まで押し広げていく必要がある>と結論づける。

脳の科学的研究としては興味深いが、「男も化粧するほうがいいのネ」「化粧しない女性はどんなの?」(個人的には、意識して化粧しない女性の方に知的な人が多いように思う)などと突っ込んでみたいところも随所にある。社会学者など他分野の研究者も巻き込んで研究をさらに進め、主たる研究者・恩蔵さん自身による次作に期待したい。



独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE) 化学物質管理センター／著 身の回りの製品に含まれる **化粧品** 化学物質シリーズ 1

67頁 冊子は無償で公開 (<http://www.nite.go.jp/chem/shiryo/product/productinfo.html>)
出版社：独立行政法人 製品評価技術基盤機構 化学物質管理センター
〒151-0066 東京都渋谷区西原2-49-10
TEL 03-3481-1977
2007年発行 (2012年改訂第五版)

【評者】 (公財)東京都環境公社 東京都環境科学研究所 **加藤みか**

老若男女を問わず、日常生活で欠かせないものとなっている化粧品。2001年から全成分表示が義務づけられたものの「表示を見てもよくわからない」という方も少なくないのでは？

本書は、化粧品等を種類別に分けて、どんな用途でどんな化学物質が使用されているのか、どんな法規制が関連しているのか、わかりやすくまとめた解説本で、今後の化粧品選びに役立つ1冊となっています(詳しくは本誌p.28、平井氏(NITE)の原稿をご覧ください)。なお、NITEのWebサイト「化学物質総合情報提供システム」で調べることができます。

本書を読んで、普段使っている化粧品の表示が気になってしまい、洗顔料、シャンプー、歯磨き粉、化粧水等々、1日に使用する全ての化粧品等を集めて、含まれる成分を調べてみました。その数なんと約400種類。化粧品等だけでも、こんなに多くの化学物質に関わって暮らしているんだなあと改めて驚きました。本書はシリーズ本で、家庭用殺虫剤や洗剤等の解説本も無償で公開されています。「身近な生活用品に含まれる化学物質についてもっと知って理解を深めたい!」という方々にお勧めです。



齋藤 薫／著

「美人」へのレッスン

A 6 283頁 定価750円
発行所：株式会社講談社
〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21
TEL 03-5395-3530
ISBN4-06-256593-5 2002年発行

【評者】 環境カウンセラー **友田加世**

著者の齋藤薫氏は、第一線で活躍する美容ジャーナリスト。キレイになれる化粧品の特徴を的確にとらえた美容記事から、生活や精神のあり方まで踏みこんだ女性論までを、鋭く明快に発信し、女性たちの意識を刺激し続けている。

「美人」とはどういう人のことか、また「キレイ」とは何かについて、長年、女性の美を追求し続けた著者ならではの美人論が展開されている。

本書は30のテーマで構成されており、テーマごとに実例をあげながら、的確なレッスンが綴られている。ここで、いくつか抜粋してみよう。「表情のある人は、結局目に心があるのだ(中略)「目が語る表情の美しさは一生もの」なのである。」

「女性にとってもっとも大切なのは、生活する上で一番基本的な言葉を、どれだけでいいに心を込めて発することができるか、(中略)人は言葉。」「二十代の美しさ醜さは「心」で決まると言っているのである。」

「三日間、鏡も見ず、人とも会わないと、女の顔は数パーセント醜くなるのだそうである。」

本書の美人論は、清潔感、声、ことば、会話の質、所作、考え方、愛し方、生き方にまで広がる。エコに配慮したライフスタイルも、美しい「心」に通じるように思う。自分らしい美しさを見つめてみたい人に、おすすめしたい一書である。